

レポート講評

レポート課題：ミケーネ社会のモデル

講評：1月9日の授業の時に同じテーマで小レポートを書いてもらっているということをお覚えておられる人がおられるでしょうか。

受験者の平均は56%、最高点は80%、最低点は32%という成績でした。

「ミケーネ社会のモデル」という課題にもかかわらず、中期青銅器時代の文化とミケーネ文明との文化的連続性やソロス墓と宮殿との関係を論じるレポートがいくつかあった。それ自体は興味深い論述であるが、残念ながら本レポートで求められている課題ではないので高い評価を与えることは出来なかった。

マックス・ウェーバーの封建社会モデルとチャドウィックや太田秀通の西アジアの官僚制をとまなう専制君主体制モデル、さらにレンフルーの宮殿再分配システムモデルを紹介するレポートが多かった。とくに太田のモデルを取り上げているレポートが目についた。ひとつはミケーネ社会が無階級社会から階級社会への移行期にあるという太田の発展段階論的なモデルに注目したものがあつた。家族形態と土地所有形態に着目し、アジア的大家族からギリシア・ローマの小家族への移行過程を示す拡大家族という家族形態を論じたり、私有地と訳されるコトナ・キティメナを家族の間で共同所有されている土地所有の形態、さらにはマルク共同体論にまで言及している。

しかしこれらの西アジアの都市国家を参照して構築されたチャドウィックや太田らの古典的社会モデルを批判する研究に言及するレポートも見られた。特に前川が指摘するミケーネの宮殿経済の規模と西アジアの宮殿経済の規模との相違に着目するものや、中井が指摘するタブレットには親子二世代を超える名詞が見られないという主張を紹介するレポートもあつた。

さらに長年ミケーネ社会を論じる際に強い影響力を持ってきたレンフルーの宮殿再分配システムを批判し、必ずしもミケーネ社会が宮殿を中心に生産・分配・消費を行っていたわけではなく、宮殿とは結び付くことなく行われる生産・分配・消費もあるというハルシュテッドの説を紹介する

レポートも見られた。生産・流通という視点からミケーネ社会には宮殿セクターと非宮殿セクターが見られ、威信財となるような織物などのように宮殿に所属する工房で生産され、宮殿によって管理され、宮殿支配を維持するために領内有力者などに下賜されるものや、青銅の鑊のように原材料は宮殿が管理し、生産は地方が行うものや、穀物や亜麻のように地方で生産されたものを貢税という形で宮殿にいったん集め、それを再び宮殿から分配されるものは宮殿セクターに所属する。しかし石器のように宮殿とは関係なく地方において原材料の収集、加工、分配が行われる非宮殿セクターも存在している。